地域がん登録への思い　～大阪府がん登録を住民の身近に、の取り組みから～

濱本 満紀
NPO法人　がんと共に生きる会　事務局長

私は現在、4つのがん患者団体と大阪府立成人病センター予防情報センターからなる『大阪がんええナビ制作委員会』の代表を務めております。申すまでもなく、がん患者の療養生活において、自分に合った様々な情報を得ることはその質を大きく左右します。ただ、インターネットが普及し情報は溢れていても、信頼できる確かな形で整備され簡便に入手できるとは言い難いものがありました。それを自身や家族の“情報探し”で経験していた患者側が、同時に患者予備軍である人達にもがんを知り予防や検診への関心を高めてもらおうと、医療側の参加を得て2010年に設立したのがこの委員会です。翌年3月、当会は患者・府民目線に立ったがん情報総合ポータルサイトとして、『大阪がんええナビ』を公開しました。

このサイトは、がんを“知っておこう”“調べよう”“考えよう”“聞こう”の4つのカテゴリーに分かれていますが、そのどこででも大阪府のがん登録情報に触れることができます。

web　http://www.osaka-anavi.jp

例えば、がんを考えようデータ/がんの現状と地域・施設間格差では、がん予防情報センターが運営する大阪がん情報提供コーナーの「あなたの街をがんウォッチング　がん統計ランキング」が見られます。府内43市町村が年齢調整死亡率や早期診断割合などについてランキングされていて、市町村名をクリックすると各市町村のがんの特徴が分かり、閲覧者への予防・検診啓発に繋がっています。

また、がんを調べよう/病院についてでは、府下にある国指定・府指定のがん診療拠点病院60施設の現況報告とともに、5大がんの施設別・医療圏別の治療数や5年相対生存率を一覧でき、こちらは施設や治療法を選ぶ際の手がかりとなっています。

50年の歴史を持つ大阪府がん登録からもたらされるこれらの情報を享受できる大阪府の住民は恵まれていると申せましょうが、だからこそ情報提供者（この場合は当会）には留意しなくてはならないこと、その提供の仕方、があります。施設や医療圏の単なるランキングではなく、病院や治療法を決めたり検証する際の、あくまで参考ツールのひとつとして用いてもらいたいこと。数値の高さが誰にとってもベストとは限らないこと。5年生存率を例にとりましても、低い病院は既往・合併症のある患者を多く受け入れていたなど、背景が違う可能性があります。このような数値の差だけに惑わされることがないようナビゲートする役割を当サイトでは果たしたいと思っています。

近日には新カテゴリー“使える!～大阪府がん登録で分かること”をオープンさせ、がん登録の仕組みや患者・住民にとってのメリット、個人情報の扱い、地域や国内、医療機関の現状を把握したがん対策により将来の患者が受けるがん医療の恩恵、などについて分かりやすく解説することから始めてまいります。まずはなにより、住民ががん登録を身近に引き寄せられるように。

ご存知のように大阪府では、昨年4月に本人確認情報の利用・提供に関する条例が施行され、住民基本台帳ネットワークの活用が府内の追跡調査を飛躍的に向上させているようですが、他県に居住する患者情報の把握には限界があります。がん登録が法制化され、国が都道府県とともに先行自治体の制度を取り入れた事業を構築し、国と自治体の役割を明確にしたシームレスな収集と分析を経て、国民ひとりひとりのがん対策に還元して頂きたく望むものです。

図
がん拠点病院別診療実績